小中体連野球発第9－3号

令和4年9月27日

学校長　野球部顧問　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山梨県小中学校体育連盟

会長　菅　谷　　　信

野球専門部長　矢　吹　和　信

野球専門委員長　田　鹿　欣　孝

**第４０回山梨県中学校新人野球大会出場について（依頼）**

第４０回山梨県中学校新人野球大会出場権獲得おめでとうございます。下記の指導遵守事項，大会規定を確認の上，大会運営にご力くださいますようお願いいたします。



山梨県中学校野球大会規定

山梨県小中学校体育連盟野球専門部

１　　出場チームは，指定時間に必着のこと。球場に到着したチームは，その旨を本部に届け出ること。

２　　チームは，登録した監督（引率責任者）の下に入場しなければならない。引率責任者不在のチームの試合は，認めない。ただし，代理の教員がいて，それを届け出たときはその限りではない。また，引率責任者（代理者）は大会中の選手および応援団の行動に責任を負うものとする。

３　　前試合が４回終了後，主将はメンバー表６通を大会本部に提出し攻守を決める。外部コーチがいる場合はこの時，その旨を報告する。

４　　ベンチに入り得る人員は，教師は，学校長（教頭）・監督（当該校教諭）・コーチ２名（うち外部指導者は１名のみ）の４名以内とする。選手は１８名以内とし，スコアラーは１８名以外でもよいが，当該校の生徒とする。

５　　ベンチサイドは抽選番号の若いほうを１塁側とする。

６　　シートノックは前試合終了後直ちに開始すること。制限時間は７分以内とする。

　　　（ノッカーは２名以内・補助員の生徒はヘルメット着用とする。）

７　　球場内は原則打撃練習を行わない。行う場合はトスバッティング（１対１）のみとする。

８　　試合が決しないときは別に定める特別ルールを採用する。細則は大会ごとに決定する。

９　　審判に対する申し出は，監督・主将および当該プレーヤーに限る。

10　　審判のジャッジには絶対に抗議することはできない。

11　　試合中監督はダッグアウト内（ベンチ）で指導に当たる。（タイムの時はその限りではない。）

12　　監督・ノッカーはユニフォームを着用すること。なお，監督は背番号３０，コーチは背番号２９，２８をつけることが望ましい。

13　　選手はポジション順に登録時の背番号をつけること。

　　　（合同チームの場合、各校のユニフォームでも可とするが、背番号については続き番号とする）

14　　試合中攻守交替は，迅速にすること。

15　　コールドゲームについて（本大会において下記の場合コールドゲームとする。）

　　Ａ．５回以降７点以上の得点差の場合。（決勝戦を含む全試合で適用する。）

　　Ｂ．降雨暗黒その他競技の続行不可能ならしめる理由により，審判員が試合の打ち切りを命じた場　　　　合に両チームとも５回攻撃を均等に完了するか，あるいは先行チームが５回を終った得点より　　　　後攻チームの４回までの得点が多い場合はコールドゲームとし，それ以外の場合は特別継続試　　　　合とする。

16　　用具について

　　Ａ．使用球は専門部会において決定する。

　　Ｂ．金属バットは，公認バット（ＪＳＢＢ）を使用する。

　　Ｃ．手袋は無地の白または黒とする。

Ｄ．スパイクは黒一色・白一色とする。

　　Ｅ．禁止事項は別に定める。

17 　監督が，投手のところへ行く回数の制限

　　Ａ．監督が，同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか，行ったとみなされた場合（伝令を使うか，捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合）は，投手は自動的に交代しなければならない。“中学校野球”では，交代した投手が，他の守備位置につくことが許される。また，監督は１試合に投手のもとへ行ける回数は７イニングでは３度以内とする。延長戦になったときには１イニングに１度行くことができる。

Ｂ．捕手または内野手が，一試合に投手の所へ行ける回数を，７イニングスの試合にあっては３度以内とする。なお，延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は，１イニングスに一度行くことができる。野手（捕手を含む）が投手の所へ行った場合，そこへ監督が行けば，双方一度として数える。（その逆の場合も双方一度として数える）投手交代の場合は、その回数に含まない。

Ｃ．攻撃側のタイムは，一試合に３度以内とする。なお，延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は，１イニングスに一度行くことができる。

Ｄ．監督が投手のところへ一度行くか行ったとみなされた場合は，球審は，あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお，一度目に知らせなかった場合は，二度目に行こうとしたとき，球審はその旨を知らせなければならない。ただし，球審が知らせなくても，監督が，同一イニングに同一投手のところへ二度行くか，行ったとみなされた場合は，投手は　自動的に交代することになる。

18　 危険防止のため次のことを徹底する。

　　Ａ．バットリング，鉄棒等の球場への持込を禁止する。

　　Ｂ．足を上げてのスライディングは禁止し，現実に妨害になった場合は走者をアウトにする。

　　Ｃ．捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと，打者と走者・次打者，ベースコーチの両耳付きヘルメットは必ず着用すること。また，リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。

Ｄ．規則７・０６（ａ）【付記】（捕手のブロック）の適用について，中学校野球では，『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。

　　　[規則適用上の解釈]

　　(1)走塁妨害を適用するのは，あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断

　　　 できる場合である。

　　(2)捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず，瞬間的に『アウト』のコールをした場合でも，改

めて「オブストラクション」の宣告をしなおす。

　　(3)走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は，試合を停止したうえ，捕手に対し

 て厳重注意すること。

　　(4)ボールを保持する前の立つ位置は次の通りとする。

　　　　　①ホームベースの中央線より右側に立ち，

　　　　　　ベースの左半分走者に見えるようにすること

　　　　　②また，捕手がホームベースより後方に位置

　　　　　　するときでもホームベースと３・本間のラ

　　　　　　インが重なる３塁よりの接点（別図ｂ点－ｂ’）

　　　　　　から前方に出てはいけない。

　　(5)捕球してからの動き

　　　　　ボールを保持しているときは塁線上に移動してタッグをしてもよい。

19　　傷害処置について

　　　大会中時の負傷また疾病に対しては応急処置を施し，主催者は責任を負わない。

20　　選手の健康管理について

　　　大会の試合中選手の負傷その他の健康上の理由で主催者が試合続行を不適当と認めチームの試合　　　を停止することがある。光化学スモッグ発生時、また感染症や熱中症予防等の処置については本　　　部の指示による。

21　　参加選手の変更は前日までに医師の証明あるものにつき認める。

22　　大会日程は，専門部会によって決定する。

23　　投球数制限について

　　Ａ．投手は大会期間中，１日の投球数１００球以内，１週間の投球数３５０球以内とする。

　　Ｂ．試合中に規定投球数に達した場合，その打者が打撃を完了するかチェンジになるまで投球できる。

　　Ｃ．タイブレークになった場合，１日の規定投球数以内で投球できる。

　　Ｄ．両手投げ投手については，「個に対して１００球」との解釈から，左右の合計数とする。

　　Ｅ．投球数の管理は，大会本部がおこなう。

付　則

　(1) 出場資格はその年度当該校に在籍する生徒であること。

（過年度生徒については，学校長の許可を必ず受ける。）

　(2) この規定変更は専門部会によっておこなう。

　(3) この規定は昭和５１年度より適用する。

(4) この規定は小中体連主催の大会に適用する。ただし，支部大会においては必要に応じて支部規定を設けてもよい。

(5) 試合成立を５回とし、試合時間が１時間５０分を越えた場合、新しいイニングに入らない。その際同点の

場合は直ちに特別延長をおこなう。また試合時間上限を２時間とし、５回試合成立していなくても、２時

間を超えて新しいイニングに入らず勝敗を決する。

(6) 大会運営上支障があると判断した場合は，試合開始後でも試合運営を変更にする場合がある。

禁止事項

　(1) 部外者のベンチの出入り，および，試合に関係するサイン等の行為や指導。

　(2) 投手の利き腕のサポーター（ただし，怪我をしている場合は考慮する。）

　(3) 硬式用金属バットの使用。

　(4) 変形バット及び過度な損傷バットの使用。

　(5) 投手はマウンド上でブロックサインを出さない。

指導事項

　(1) アンダーシャツは着用することが望ましい。

　(2) チーム内でスパイクの色を黒一色または白一色に統一する(R4新人より)【合同チームは混在ＯＫ】

　(3) 茶系統以外のグローブの使用。グローブのひもは必ず結ぶ。結び目から親指の長さを目安とする。

　(4) 華美なユニフォームの使用。（ツートン可）

(5) 各回の先頭打者は，相手投手の投球練習(7球または3球)が終了するまでは，ウェイティングサークル内で待機していること。

(6) 各回守備時のキャッチャーからの声かけは，ホームプレートを越えて行わない。

　(7) キャッチャーからの声かけ時に，守備側ベンチ内の控え選手は，ベンチより２ｍ以上グランド内に入らない。

＊特別ルール

　①７回終了後勝敗の決しないとき，即「特別延長」(タイブレーク)に入り，を勝敗が決するまで行う。

【タイブレークとは】

継続打順で前回の最終打者を１塁走者とし，２塁の走者は順次前の打者とする。すなわち，無死１・２の状態にして１イニング行い，得点の多いチームを勝ちとする。なお，通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。《２回目以降も継続打順で続いていく》